

+ 4 6 【かりがり】

またあるとき懐爺に質問しました。

「がいこくから、ゆにゆうされた、おぼけで、かわいそうなやつじゃのうて、おもしろいやつはおるかのう」

「そういうことなら【かりがり】でしょうね」

「そいつがどいつかはしらんがのう。おもしろいなまえじゃのう」

「【かりがり】がおもしろいのは名前だけではありません。何しろ自分では一切何もしない。いいこともわるいことも。【かりがり】は人間を操（あやつ）って、いいこともわるいこともさせるおぼけです」

「いいこととは、なんじゃろ」

「いいことは、めったにさせませんから、わたしもわかりません」

「わるいこととは、なんじゃろ」

「殺人ですね」

「だども、あやつられるにんげんも、だらしなのう」

「【かりがり】は博士（はかせ）ですから、操る術（すべ）を心得ています」

「あやつられんためには、どうすればいいんかのう」

「それが問題でして、何せ博士ですから尊敬されています。だから洗脳（せんろう）される人間がいっぱいいます」

「せんろうたあ、のうをあらうことかのう。のうをあらってもらえば、すっきりするがのう」

「洗うといっても、自分の都合のいいふうに洗うのですから困ったものです」

「だば、ひとごろしやっても、そいつにつみはないのう。【かりがり】のつみじゃろうのう」

「それも問題でして、洗われてしまった人間にも罪があるのです。それは自分の力で考えない罪です」

「わしはそうはおもわんのう。かんがえるなんて、めんどうくさいもんじゃからのう。そんなめんどうは、どんなにんげんでも、やりたくないからのう」

「金ちゃんは考えるのが得意ではないですか」

「とくいでも、きれいじゃのう。【かりがり】はそんけいせんが、かいじ
いなら、せんのうされてもええのう」

「困りましたねえ」

懐爺は本当に困惑の表情でした。